

第18回環境教育・環境学習ネットワーク会議 会議要旨

日時：平成27年10月28日（水） 15:00～17:00

場所：市役所3階会議室A

出席委員：高橋弘二座長、鈴木副座長、桐谷構成員、吉田健人構成員、米田構成員、宇佐美構成員、内船構成員、太田構成員、高橋直人構成員、森構成員、吉田松子構成員、（計11名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、大場、山中）

傍聴：1名

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 第4期委員自己紹介
- 3 座長及び副座長の選任について
- 4 報告
 - (1) 平成27年度教員向け環境学習講座の実施結果について
 - (2) 平成27年度相互交流を生かした人材育成講座の実施結果について
- 5 議題
 - (1) 平成28年度相互交流を生かした人材育成講座について
 - (2) 横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しについて
- 6 その他
事務連絡

◆ 第4期構成員自己紹介、座長及び副座長の選任について

当会議の第4期構成員による初の会議となったため、出席者による自己紹介を行った。続いて、会議運営のための座長及び副座長の選任を行い、第3期に引き続き以下の2名が選任された。

座長：高橋 弘二 氏（横須賀「水と環境」研究会）

副座長：鈴木 衛 氏（東芝ライテック株）

◆ 報告1 「平成27年度教員向け環境学習講座の実施結果について」

〔要旨〕

平成27年8月5日（水）に横須賀しょうぶ園で「生物多様性と外来生物フィールドワーク」をテーマに、教員向け環境学習講座を実施した。18名の教員の参加（申込20名）があり、ネットワーク会議からは3名が参加した（うち1名は教員としての参加）。講

義およびフィールドワークを行ったが、ともに好評であった。教育委員会の評価も好評であり、来年度以降も同様に連携研修として実施していきたい。

高橋座長

今の報告に対してご意見、ご質問がありましたらお願いします。
参加された桐谷さんお願いします。

桐谷構成員

生物多様性という言葉を知ると、企業活動として生態系サービスへの影響を抑えるという非常に大きく漠然とした話が多いのですが、今回の参加では身近な環境、元々ある生態系はどうであって、今どうなっていて、どのような課題があるのかと具体的にお話をいただき、その後フィールドに出て見るという流れが非常に分かりやすく新しい発見がありました。しょうぶ園近くの平作小などに行ったりするのですが、「こうだったんだ」と改めて認識し非常に楽しい半日でした。また機会がありましたら参加したいです。

高橋座長

考察にもありましたが、初日で定員に達したということで、嬉しい悲鳴ですが、このような講座が年2回、その内1回は教員向けと絞ることがいいのか、今後増やしていく必要があるのか、宇佐美先生いかがですか。

宇佐美構成員

今回、初日で定員に達したのは、私たちのシステムを使っていただいたのとは全く関係なく、テーマ設定が素晴らしかったからだと思います。教員はシビアで「これは面白くない。」と思うとなかなか人が集まりません。今回テーマ設定が良かったのでこれだけの人が集まったと思います。これも数を増やせばいいとやっていると「行ったらつまらなかった。来年はもういい。」となりがちなので確実に毎回毎回人を集めることを考えて進めるのがいいと思います。

高橋座長

日程的にはいかがですか。

宇佐美構成員

研修がたくさんひしめいている部分がありますので、私としては8月に1回がいいのではないかと思います。

高橋座長

あまり変えずに毎年ここでやるということですか。

宇佐美構成員

毎年、同じ時期に環境企画課でやっていただけるというのを定着させていくのが今はいいと思います。

◆報告2 平成27年度相互交流を生かした人材育成講座の実施結果について

〔要旨〕

「広げよう環境教育」をテーマに、全2回の人材育成講座を実施した。

第1回目は、平成27年9月3日（木）に横須賀市自然・人文博物館で「横須賀の自然環境を見つめ直そう」をテーマとして、環境活動団体参加者を中心に、計19名の参加があった。講義と特別展示の見学により、横須賀における自然環境を学ぶことができた。第2回目は、平成27年10月1日（木）に東京ガス株式会社扇島工場で「都市ガスの理解を深めよう」をテーマとして、環境活動団体参加者を中心に、企業、市職員から計18名の参加があった。LNGの基地やLNGについて、講義、実験、工場見学を通して学ぶことができた。どちらの講座も「参考になった」と感想が多かった。

高橋座長

2つの講座に対し、ご意見や感想がございましたらお願いします。

内船構成員、博物館での講座の件で補足がありましたらお願いします。

内船構成員

今回、博物館の自然系の学芸員が担当した夏の企画展示の期間とタイミングが合ったので、自然系の「標本いろいろ」という展示を見ていただきました。また、アンケートには天神島臨海自然教育園の希望が多く、来年は天神島がオープンして50周年を迎えるという記念すべき年なので、それも個人的にはいいかと思います。

高橋座長

ありがとうございました。

東京ガスの見学に参加したのは構成員の中では私だけです。見学の日には台風ですごいお天気でした。本来はバスで構内を周り降りて説明を聞く、また普段見られない外国から運ばれたLNGをシーバースという陸から離れたところに陸揚げし地下トンネルでくるので、そこを見たかったのですが、台風のため危険で見られないとのことで、お天気が災いしました。皆さん関心があったのはLNGの実験でした。マイナス162度を体験するとどのよ

うになるか、バラの花が一瞬にして凍り叩くと粉々になる、テニスボールがカチンカチンになるそのような実験を目の前で見ることができ、皆さん驚いていました。そのような普段見ることのできないところに行けるチャンスですので、皆さん都合がつきましたら参加していただければと思います。

◆議題1 平成28年度相互交流を生かした人材育成講座について

【事務局からの説明】

平成28年度の相互交流を生かした人材育成講座の企画に向けて、内容や対象などを自由に議論していただきたい。本日の意見をもとに、具体的な企画案を作成する。

論点としては、講座の内容や、現在の講座の構成、講座に協力できることなど。

高橋座長

この内容や説明事項に関しまして、質問や確認事項がありましたらお願いします。

桐谷構成員

確認ですが、資料3-1の4「平成28年度の方向性」のところの「対象は市民活動団体（個人含む）とする」というのは昨年度もこのような書き方でしたでしょうか。市民活動団体にフォーカスする理由を説明していただきたい。

事務局（笠原主査）

ここの表現は昨年と同じになっているのですが、具体的には市民活動団体で、どちらかと言うと後ろの部分の一般市民、これから活動を始めようとしている方を対象にするのではなく、既に活動をされている方が対象となる。企業の方が企業の取組の中で実践している方々も対象になるので、実際やっている方を対象にするということ。資料にはピンポイントに市民活動団体または個人と書いてあるが、広く活動されている方を対象と考えている。

高橋座長

「スキルアップを目指す」ここに条件を合わせているのですか。

事務局（笠原主査）

はい。

高橋座長

確認事項、質問がありましたらお願いします。

では、ご意見がありましたらお願いします。事務局から補足はありますか。

事務局（笠原主査）

先程、今年の報告を行ったが、内船構成員から話があった天神島は1つのフィールドとして来年のターゲットとしてどうか、ご意見をいただきたい。また、講座全体の組立として活動者を対象に、座学とフィールドを合わせたことを行っていますが、それ以外に別の観点を取り入れた方が良い、などがあつたら伺いたい。企業への見学は企業側が用意しているプランがあるので、全てこちらの希望をお願いするのは難しいが、今年で言うとも博物館で「目で見る、耳で聞く」といった組立に、また新しいアイデアがありましたらお願いします。

高橋座長

天神島が来年50周年とのことで、タイミングがいいと思います。天神島には学芸員が常駐していませんが、博物館との関係はどのようになっていますか。

内船構成員

深田台の本館の付属施設ですので、天神島でイベントを行う時は、もちろん天神島のスタッフの中にも日常的に管理活動を行っていく中でガイドが出来る者もいるが、自然系の学芸員がそちらに行き説明をするというパターンです。

高橋座長

毎月、1回観察会を行っていますね。

内船構成員

はい。現地のスタッフが行っています。日常的なきめ細かい観察記録を反映できるので現地スタッフにお任せしています。

高橋座長

今日の段階は方向性だけです。

事務局（笠原主査）

はい。今回報告があつたので、報告を受けインスピレーションで何か思い立ったことをこの場でご意見いただけるとつながりがあるかと思ひ議題としました。

高橋座長

特にならなければ、来年度計画の時までに色々考えてきていただき、来年度の計画

に盛り込んでいただきたいと思います。

◆議題2 横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しについて

【事務局からの説明】

第17回会議の意見等を参考に「見直し素案」を作成した。この「見直し案」を基に、パブリック・コメント手続を実施するため、追加の修正などがないか議論をお願いする。

高橋座長

質問や確認がありましたらお願いします。

太田構成員

環境基本計画85ページの「今後も、市民、事業者、団体、学校など」というところが今言われた「市民、事業者、市など」だと思うのですが、そうすると団体を入れなくてもいいのかということになりますが、特にこだわらなくてもいいのですか。団体という表記が規約にもありますが「など」に団体が入るのか入らないのか含めて回答をお願いします。

事務局（笠原主査）

団体の表記については、85ページ2行目にあるが、団体という視点は、市民、事業者、市の中に含まれていると理解していただき、環境基本計画では、それを踏まえて基本目標5の「市民、事業者、市」という捉え方をしている。ご指摘の主旨は理解できるが、環境基本計画では基本目標の表現を変えないということなので、表現はそのまま引用している。環境基本計画88ページの施策の方向で記載しているこの環境基本計画の中で、基本目標を達成するうえでの方向性が示されており、マスタープランはこの施策の方向のうち環境教育に関するものをそのまま引用しているのでマスタープランのみ変えることは考えていない。また、環境基本計画の現状の見直しの中で大きな柱となる目標と表現をこの団体を踏まえたかたちで「市民、事業者、市」と表現しているので、それに連動してくる施策の方向の表現も今回の中間見直しでは変えない。意見はこちらから伝えてあるので、次の大改定時にはこのような表現も踏まえて基本目標の部分から見直しを行う予定である。

高橋座長

「市民、事業者、市」と書かれていますが、これは団体を含まないとか学校を含まないということではないということですね。

事務局（笠原主査）

はい。

高橋座長

この見直し案について、これまで意見が出ていたものが反映されたところ、あるいは反映せずに市の主張するところがあると思いますが、皆さんご覧になりいかがですか。

鈴木構成員

資料4-3「横須賀市環境教育・環境学習マスタープラン」【見直し素案】の12ページ、「(2)基本方針 2)あらゆる人が参加・利用できる「機会づくり・場づくり」を進めま

す」の各主体の取り組みの方向性で事業者は「企業活動におけるCSR活動に積極的に取り組み、専門性を活かしたイベント等を開催します」と宣言しているのですが、企業はイベントをしなさいということですか。

事務局（小澤課長）

義務ではない。基本的にはあくまでも努力目標であって、行えないからと言って罰するようなものではない。これは、あくまでもこうして欲しいということで、やらなければならないという規程ではない。

鈴木構成員

日産さんなど大きなところは簡単にできると思うのですが、パワーがないところはなかなかできないと思います。

事務局（小澤課長）

意識を持って行っていただきたいということで、大きなことを行うのではなく、少しずつ小さなことでも行って欲しいということです。

高橋座長

「イベント等」となっているので、色々独自性のものがあると思います。

鈴木構成員

企業にはどのようなかたちで報告やお願いを伝えるのですか。

事務局（笠原主査）

周知の方法は、個々の企業に出来上がったものを送る方法は取らず、企業や市民団体いわゆる市域全体ということになるので、一番ポピュラーな周知方法ですが、「広報よこすか」でお知らせをする。今回このプランだけではなく、大所になる「環境基本計画」や、「低炭素で持続可能なよこすか戦略プラン」の見直しもあるので、一括して周知する予定をしている。見直しで変わった部分をご覧いただき、活動していただきたいとお知らせする。後

はホームページで内容をご覧いただき、それぞれ該当する分野の方にご覧いただく方法を現在想定している。

高橋座長

計画が出来ても、それをどのように啓発、普及するかですね。その辺が大切だと思います。その他ございますか。

太田構成員

7ページ、1) 自然環境に「東京湾には唯一の無人島・猿島があります。」この表現ですが、「無人島である猿島があります。」の方がしっくりくるのではないかと。「・」だと並列になり分かりにくいのではないかと。また、色々な箇所「等」をよく使っていますが、9ページの(3) 学校における環境教育・環境学習の実施についての ●「横須賀市環境学習プログラム」、「よこすかのかんきょう」の作成の「授業等」の「等」と「など」が混在している場所がある。意識的に分けているのであればいいが、もし分けていないのであれば理由を聞かせていただきたい。

事務局（笠原主査）

「無人島・猿島」はご指摘の通り2つ島があると読み取れてしまうということもあるので、「無人島である」という表現を加えると分かりやすいので変更を検討致します。「など」の表記については、使い分けは特になく、意味は同じ扱い。例えば、環境基本計画から引用している場合は変えられないが、事務局で表現を見直し整理する。

高橋直人構成員

今回の見直しということではなく、今後考えていただけると良いと思うのですが、24ページに「環境教育・環境学習マスタープランの概要図」が載っており、それまでに行政の取り組み、地域の取り組み、市民の取り組みといった個別に謳われていて、最終的にはこの図のように全てがつながるなるため、コーディネートしていく仕組みも今後考えていく必要があるのではないかと思います。それぞれが個々で色々なことを行っているのですが、もう少し結びついていくともっと相乗効果で効果が上がっていくと思います。今回のこの計画で2021年までとなっているので、それ以後のことになるかもしれませんが、もう少し長い目で見ていくと良いと感じました。

高橋座長

今日のご意見をもってパブリックコメントにかけるということです。何か意見があれば何日までという締め切りはありますか。

事務局（笠原主査）

ご意見がありましたら明日までにいただければそれを事務局で検討する。

パブリックコメントの実施に関しては広報 11 月号に掲載します。パブリックコメントの期間は 11 月 11 日から 12 月 1 日に実施となる。その結果は来年明けにどのような状況であったかを文書でお知らせする。

高橋座長

ご意見があれば明日中にお願ひします。

事務局から連絡事項をお願ひします。

事務局（笠原主査）

事務連絡が 4 点あります。

1 点目は次回の第 19 回ネットワーク会議を来年 2 月に予定しています。また、皆さまのご都合を 12 月上旬にお伺いし日程を調整します。

2 点目は 12 月に発行予定の ECO 通信 19 号に掲載するイベントがありましたら情報提供をお願いします。

3 点目は来年 1 月 23 日（土）に「よこすか環境フォーラム」を開催します。その際のフロア展示、発表団体の募集は広報よこすか 11 月号に掲載します。ぜひ皆さまのご参加、関係する団体の方にもお声掛けしていただければと思います。ご不明な点は事務局にお問い合わせください。

4 点目は席上に置かせていただいたチラシです。12 月 13 日に自然環境講演会が開催されます。先着 80 名となっております。ぜひご参加やお声掛けください。
以上です。

高橋座長

先程お配りした「とっておきの仲間たち」ですが、これは三浦半島で活動している団体の活動紹介です。三浦半島まるごと博物館連絡会を設立し、10 周年を記念して 9 月 13 日にフォーラムを開催した際に配ったものです。三浦半島でこのような活動をしている団体の連絡会があることを心にとめていただき、ぜひ参加してください。このまるごと博物館連絡会で年 3 回のガイドツアーとフォーラムをやっています。

以上ですが、皆さんから何かございますか。特になければ、第 18 回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終わります。ありがとうございました。